



データボード ③①

- ① 北海道釧路市浦見 8 丁目
- ③ 自噴井戸
- ④ 四阿：木製，井戸：木製，道路：
カラーブロック

この自噴井戸は、明治三十四年に開店し、詩人石川啄木が通った料亭として知られるしやも寅の敷地内にあったことから、「しやも寅の井戸」と呼ばれるようになった。

井戸のすぐそばには水神の碑があり、その由来は不明であるが、明治四十一年に当時の土地所有者や周辺の住民が共同で建立し、今も水の神として井戸を守り続けている。

水脈は地下数百メートルの岩盤の割れ目といわれ、冬も凍ることなく年間を通して七、八度の自噴水が湧き出ており、昔から地域の住民から「命の水」として尊び親しまれ、現在も広く市民に愛され利用されている。